

社 報



なぜ腕を磨くのか

明るい未来を信じて

昨年年初あたりから、不景気風が強まり、日本の大企業でさえも、大きな赤字決算となっています。

建設に関連する投資も、少なくなり、当社の受注にも、大きな影を落としています。

工事価格下落も進み、収入減少など、つらい現実が目前にありますが、明るい未来を、私達の力でつくと信じて努力しましょう。

努力は必ず報われないから尊く、報われると信じて頑張るしかありません。あきらめたら「負け」です。



残暑お見舞い申し上げます
もう一息で、涼しい秋を迎えます。

職人として腕を磨くということは、とても大切なことです。これは何も、職人に限ったことではありません。腕を磨くということは、どんな職業であっても、とても大切なことです。

現代社会での仕事は、役割分担と組織化が進み、仕事が細分化されるにつれ、個人の能力によって、仕事の結果が極端に左右されないように、仕事が計画されています。

建設現場での仕事も、どんどん仕事のシステム化がなされてきていて、個人の技量は昔ほど、仕事の結果に反映されることは少なくなっていると思われる。

そして、仕事の分業化・システム化が進むに連れて、職人さんの技量も低下しているような気がします。

しかし、個人の技能が高いことは、仕事の分業化・システム化が進んでも大切なことです。仕事の進め方は誰かが計画をしているわけですから、計画の基本をきちんと理解できる為には、職人さんの技量が優れていることが前提となるのです。

このところは重要であると思います。実際、現場を見ていると、生産性の

高い現場・品質レベルの高い現場では、仕事の進め方をみんなが理解して、分業化・分担化の中で、誰もがどこでも分担できる高い能力を備えています。

仕事の全体像を、みんなが認識し、かつ、自分の役割を知る、他の人の分担も知っている、お互いにフォローができる体制がとれている。このような、職場が理想的な職場と言えるでしょう。

それを実現するために、個々の技量を向上させることは、とても大切です。

「職人は腕を磨いてこそ、職人と呼ばれる存在になれるのです。」

仕事の分担に従って、言われた事しかできないようでは、とてもではありませんが職人として存在はできません。

親方・師匠・先輩から教わった仕事を完全に理解して身に着ける。

そして、その仕事自身に工夫を加えて、より洗練された技量に育てあげ、自分の弟子・後輩に教え引き継ぐという、時代を超えた流れの中に存在することこそが、職人の役割だと思ふのです。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

まだまだ、熱中症に注意しましょう

今年の夏は、例年に比べて日射時間が少なく、温度も全体的には低いように思います。事実、熱中症の発症数は昨年に比べて、かなり減っているようです。

熱中症は必ずしも気温が高いから起こるというようなものではなく、体感温度の変化でも起こるようです。

ですから秋口を迎え涼しくなっ

たとしても、体がそれに慣れてきた頃に、急に、暑い日があったとか、日射の強いところで仕事をすると、熱中症が発症します。

熱中症は初期発症時に、きちんと手当てを受ければ大事には至ることはありません。気分が悪いと感じたら、すぐに病院で治療を受けることが肝心です。

2009年 安全成績

現場災害 H21.1.1-H21.9.5	
休業災害	----- 1
不休災害	----- 1
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 2
交通災害 H21.1.1-H21.9.5	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 2
合計	----- 2